

## 令和6年度前期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、前後期末に学生に向けて「授業改善に資するアンケート」を実施している。この「授業改善に資するアンケート」の結果に対する所見、および、教育改善のための有益なコメントや要望等を授業担当教員から「授業改善メモ」として提出してもらい、内容を取りまとめてホームページ上に公開している。

以下、令和6年度前期の授業に対して提出された授業改善メモを

- 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
- 2) 受講生が実感する学習成果
- 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
- 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
- 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

に分類し紹介する。なお、公開にあたり、記述の一部を整理・編集している場合があるので、その旨ご了解いただきたい。

### 初年次セミナー I

#### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「30分未満」が17%程度で、例年より若干学習時間が伸びている。本講義では事前学習、事後学習が設定されていることから、ある程度学習時間は確保されていると思われる。
- ・「30分未満」および「30分以上1時間未満」と回答した学生がそれぞれ38%であった。毎回の授業で課題を示したにもかかわらず、「30分未満」の学生が38%であったことは問題点として残された。授業時間外学習の時間を増やすために、予習復習の具体的な方法を示すことが課題であり、テキストの改善が必要であると考えられる。
- ・「30分未満」の学生から「4時間以上」の学生まで著しくばらけていた。グループプレゼンテーションの準備にかかる時間が、受講生によって大きく偏っている可能性があることが危惧される。このアンケート結果を受講生に提示し、プレゼンテーション準備の負担に深刻な偏りがあることを明示することが必要かもしれない。
- ・比較的多くの時間を費やして授業の予習復習に取り組んでいたようである。事前課題と事後課題を徹底させて取り組ませることを意識したい。
- ・「30分以上1時間未満」の学生が35.5%と最も多いが、テキストを講読しての事前事後学習にはもう少し学習時間を費やして欲しい。
- ・「30分以上1時間未満」が29%と多く、次いで「1時間以上1時間30分未満」が24%と、ある程度の学習時間は確保されていた。しかし、課題は学生の自主性に任されるため学生間の差は大きいと感じた。
- ・科目の平均よりも全体的にやや良好な回答となっている。引用に関する独自の小テストを用意

したほか、自分自身で無意識に設けているプレゼンの枠を壊してほしいと訴え、それに応えようとプレゼン準備に熱心に取り組んだ学生が多かったのではないかと予測する。毎回同じ工夫をしており、ゴールを初回授業から明確に示し、そのゴールからバックキャストするように指導している。盲目的に課題を与えても、やらされ感が強調されるため、学びたくなるような環境づくりを心がけている。

## 2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」49%、「おおむね得られた」46%で合計95%となり、高い評価であることから、受講生の多くは学習成果を実感できたものと思われる。
- ・おおむねほぼ全員が学習成果を実感し、「十分得られた」との回答が4割に達した。授業内容の洗練が進み、教員からのフィードバックも功を奏したかもしれない。しかし、ごく一部ながら本講義を「意義なし」と答えた学生がいた。その原因が気になる。成果として何か具体的なことができた、というはっきり自覚できるような課題設定が必要かもしれない。
- ・「十分得られた」が半分以上で、「おおむね得られた」を合わせると95%以上であった。アカデミックスキルの獲得意義を受講生は実感できていたと思われる。
- ・事前事後学習を踏まえながら、授業内容の理解をより深めているようだった。事前事後学習のフォローを行いながら、学習している時間を高めてあげる必要がある。
- ・必修科目の学生アンケートはクラスの雰囲気によって大きく結果に差があるのが常で、今回は意欲的な学生が多いクラスをたまたま担当したのだと考えている。毎年、授業内容を改善はしているが、大きく変更しているわけではない。

## 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた」66%、「おおむね促していた」31%、合計97%で受講生が教員からのメッセージを有意に感じていたと思われる。引き続き受講生自身に考えさせるような促しをしたい。
- ・「積極的に促していた」または「おおむね促していた」と回答した学生が97%を占めた。授業中に自分で考えることの大切さを繰り返し求めたことの効果が表れた結果であると考えられる。
- ・おおむねほぼ全員が自主的な考察・取り組みの促しを実感し、それが十分だと回答した者が6割に達した。グループプレゼンに対して前向きに、積極的に取り組んだことが伺える。グループプレゼンに対して全員が必ず質問内容を考える、というワークシートの枠があっても良いかもしれない。
- ・個人ワーク、グループワークとも受講生は自分なりに考察に取り組んでいたと感じられる。しかし、一部、リーダーシップをとる学生任せとなっているグループもあった。ディスカッションが滞っている場合は積極的に関わるようにした。学生の名前と顔が一致しないことが多いため、名前入りの座席表（その場合、座席は固定）を作成しても良いかもしれない。
- ・受講生にそれぞれ発言の機会を与えるようにしていたが、授業に参加している実感がより得られたようだった。
- ・標準の授業コンテンツよりも、もう少し掘り下げた解説をするようにしている。学生をできない存在であると前提するのではなく、可能性に溢れた存在だととらえて教育するよう心がけて

おり、型にはめるような教育はできる限り避けるように努力している。

#### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった」58%、「おおむね良かった」31%と、例年より若干評価が低かった。担当教員の質問への返答が遅いなどの意見があったことから、教員の対応への不満もあったためと思われる。
- ・「とても良かった」49%、「おおむね良かった」51%、合計 100 パーセントで評価は高かった。一方でグループワークの男女比を考えて欲しかったなど、運営方法に関する不満もあった。
- ・総合評価はおおむね良かったが、以下の指摘があった。より丁寧な（早口ではない、明快な）説明が欲しい、プレゼンテーションスライドに対する助言が欲しい、授業時間外でのグループワークは難しい、などである。教員からの解説は難しい部分もあるので、口頭だけでなく文書としても残す必要がある。また、授業中のグループワークを充実させる（授業時間外ではソロワーク中心とする）必要もある。
- ・グループワークの効果やコミュニケーションの重要性、効果的なプレゼンの方法への学びについて良好な感想を持つ学生が多かった。一方で、教員の説明時間の長さや特に後半でのグループワーク時間の不足の指摘があった。また、グループワークでの貢献度を成績に反映してほしいとの要望もあった。初めて初年次セミナーを担当するため、講義全体の構成、1回の講義における時間配分等を読み切れなかった。次回は重要なポイントを的確に説明できるように心がけたい。
- ・「とても良かった」と「おおむね良かった」を合わせて 95%だが、1名のみ「全く良くなかった」との評価があった。満足度の低い学生は学習時間が短い学生であった。よりきめ細やかな指導が求められていると考える。
- ・標準的な授業計画・内容が用意された科目の場合、総合的評価の対象が混在しているのではないだろうか。標準形に対する評価と、授業担当者に対する評価の混在である。総合的評価を上げたいと思うが、なかなか難しく感じている。自由記述を見てみると、長文で感謝を伝えてくれる学生も少なくなく、決して低い授業評価ではないように受け止めてはいる。

#### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・学部間を超えて学生同士で話し合う時間が多くあったことで、積極的に授業に参加する学生が多かったと感じられた。同じようなパワーポイントのスライドを繰り返し使用することが求められた授業であったことから、改善が必要であると思われる。
- ・授業内容や評価法がクラス間で大きく異なっていることに不満を言う学生がいた。単位認定や成績評価以外でこの講義を受講する意義を、その受講生は実感できていないのではないだろうか。受講生から指摘された点については、ある種の教員側の多様性を認めさせ、受講生自身のスキルアップにのみ意識を集中させることの大切さを説いてはどうだろうか。
- ・留年生はドロップアウトの可能性が高い。35人と34人で秀を出せる人数が7人と6人になってしまうので、可能であれば35~39人の範囲の人数が良い。授業に来なくなった留年生には各学科の教員への情報共有、各学科の教務委員からの呼びかけが効果的であると考えられる。
- ・複数の教員で分担している科目に関しては、他の教員が行っている授業の質が分からないため、ア

ンケートの結果を解釈しづらい。分担している科目に関しては、教員ごとに異なる授業の質を客観的に評価しフィードバックする仕組みが必要と考える。

- ・マニュアルはあるものの 90 分で達成すべきタスクも多く、時間内に終わらせることに精一杯であった。受講生はおおむね真面目に取り組んでいるが、欠席を重ねる学生やディスカッションに消極的な学生も数名おり、少なからずグループワークに影響していた。グループ編成の難しさを感じた。
- ・ワークシート集を購入するよう事前に伝えていたが、購入した者と購入しない者がおり、クラス内で不公平感があった。
- ・「他学部と同じ班で活動していたのですが、時間割が学部ごとで大きく異なり、授業前の打ち合わせで日程を調節することが難しかったので、同学部の人と活動したいと思いました」との指摘があった。
- ・標準形が用意されている必修科目は、準備も授業実施も難しい。授業準備をしっかりと行うためには、できれば授業開始前までに最終回までのコンテンツ全てが提供されるような運営に進化させてほしい（科目立ち上げの時期ではないので、細かな変更を避ければ可能ではないだろうか）。現状だと学生にゴールを明確に示しづらく、また授業準備が自転車操業とならざるを得ない。真面目にやろうとすればするほど苦しくなり、教員個人の工夫を組み込むことも難しくなる。また、複数のソース（テキスト、ガイド、提供されるスライド例、ワークシート等）を確認しなければならないような構造にも問題があり、テキストがあるならそれを中心に教えるようなシンプルな授業設計が必要ではないだろうか。スライド例はあくまでも例だと言われるかもしれないが、提供されれば、その内容を一応確認するという対応行動はごく自然だと思う。テキストとの内容の乖離が一層激しくなっていると感じており、困惑する。
- ・感染症に慎重になるべき疾病をもった学生が在籍していた。ハイブリッド授業で対応する必要があると判断し、実行した。教室の準備には時間と労力を要したが、学生は意欲的に学んでおり、意味はあったように思う。ただし、遠隔専用クラスがあることを事後的に聞き、なるほどそのような用意の周到さを理解すると同時に、情報が事前に得られていなかったことに問題を感じた（過去の説明内容を自身が忘れていた、という側面もあり）。

## 大学と地域

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「30 分以上 1 時間未満」が最も多かったが、内容的にはそのような時間になると思われる。外部論文等を一つは読んでレポートを書かせるなどしてはどうか。
- ・かなりばらつきが大きかった。事後のレポートがあるにも関わらず、授業時間以外に自主的な学習を全くしなかったとの回答もあったため、解釈の仕方に若干疑問が残る。

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・1 年生の時に多くの専門家の話を聞けることは、目的をもって今後の大学生活を過ごすのに有意義であると思われる。

- ・大半の学生は学習成果を実感していたものの、十分実感できなかった学生も確認された。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・respon のルーム機能を用い、学生の疑問や質問に対しリアルタイムで対応するようにした。
- ・respon で授業中に講師への質問を具体的に行わせた。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・通信状態が悪いなどの指摘があった。
- ・話題提供の内容によっては、「大学と地域」という授業との関わりがわかりにくい場合があったこと、話題提供者による時間オーバーやキーワードの提示忘れなどがあったことに対して、改善の要望があった。コーディネート委員会で議論の上、次年度の「大学と地域」での改善に反映させていきたい。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業など）

- ・manaba の解答と授業中に先生から紹介されるキーワードが異なっていたので、混乱が生じていたように感じる。

## **体育・健康科学理論**

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「全くしなかった」が10%であった。レポート課題や小テスト、日常生活での健康行動の実践などを伝えているが、日常的な授業時間外学習として時間の確保ができていない現状がある。講義内においては、授業後に毎回ミニッツペーパーの提出を求めているが、内容等についても検討の必要がある。理論的に学習したことを実生活に移すことの重要性や、学びを意識して取り組んだことが授業時間外学習になることの周知を図っていきたい。また、学習時間（運動時間を含む）の確認などを授業開始に実施したい。
- ・全くしていない人が13.3%であった。全8回の授業で、毎回manabaでミニッツを課しているため、0分は考えにくい。健康について調べたり実践した時間も時間外学習に入ることを1回目に伝えたが、再度伝えるなどの工夫が必要だと感じた。
- ・授業終了後に小テストを課しているが、もう少し量を増やすか検討する。

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた・おおむね得られた」の合算は98%であった。日常生活における健康の重要性や、体育・健康科学実習と関連した授業内容にしていることから、学生が学びを深めやすく、実感しやすい授業になっていることが考えられる。必修単位として理論と実習の講義が組み立てられているが、双方の授業の内容の整理を行いながら、有機的に理論と実習の往還ができるように授業改善を行いたい。また、日常生活における健康の重要性について学び、それを生活に活かすことのできる授業内容としていきたい。

- ・9割以上の学生が成果を得られている。引き続き、最新の情報にアップデートしながら授業に取り組む。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた・おおむね促していた」の合算は97%であった。授業内ではresponを使ったアンケート共有、授業のミニッツペーパーによる感想や質問の共有・回答を行い、自分自身の健康や周りの家族などの健康について考える機会となっていたと考えられる。また、実際に身体活動を取り入れることで、運動や健康に関しても興味を持ち、実践に移すことにつながったのではないかと考えられる。実際に「授業を通して実際に自分に出来ることをしようと思い、受講前と比べて、意識して運動する時間や一日の歩数が増えて良かった」など、実際に取り組みを始めた学生も一定数存在した。100名規模の対面の講義形式の授業となり、学生の取り組み状況が見えにくいため、引き続きミニッツペーパーやresponなどを活用していく。さらに自分自身の健康に興味を持ち実践に移すことができるよう、具体的な活動を取り入れながら自主的な考察や取り組みを促したい。
- ・93%がおおむね促していた以上となっており、良かったと思う。さらに授業中での問いかけの機会を増やしたい。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった・おおむね良かった」の合算は98%であった。学生のコメントからは、「他の生徒と授業内容について話す時間があった」、「友達とのコミュニケーションを図る時間を多く設けていた」、「実例や映像などの紹介があり理解しやすかった」、「講義中に簡単なストレッチの実践など、身体を動かす機会があった」など、授業内容や自身の健康課題などについて、他者の意見を聞きながら考えることができていたことや、講義だけでなく、実際に身体を動かすなど、実生活に活かす取り組みができていたことが総合評価につながったと考える。また、授業者の工夫として行っているミニッツペーパーやresponに対する教員コメント、自分自身や身近な話題、最近のトピックを入れ込むことが、学生からの評価が高くなっていることと関連していると考えられる。総合的な評価の高さを継続できるように、授業改善などを行っていきたい。また、学部特性も踏まえながら学生とのコミュニケーションを図りながら行う授業展開の検討や、特に、毎回のミニッツペーパーに対するコメントなどについても継続して実施したい。
- ・97%が「おおむね良かった」以上となっており、良かったと思う。自分の健康と結び付けて考えられるような問いかけをしていきたい。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・responで出席を取っていたが、出席していないにもかかわらず、誰かがresponの番号を教え、出席としてカウントされていた。複数名おり、その学生達には次の授業で注意した。
- ・「課題の提出期限が短い」、「responの回答時間が短い」という声も聞かれたため、課題提出日や時間の設定等も工夫したい。ターム制もあり、後半タームでは課題を事前に伝えるようにするなど工夫をしていた。学生への伝え方等引き続き対応したい。

- ・スライドの配布を望む学生が多くいた。施設のコメントとしては、教室が狭い、エアコンが 1 時間で止まるため暑い、スクリーンが揺れているなどがあった。

## 体育・健康科学実習

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「全くしなかった」の割合は 17.3%となり、令和 5 年度前期と比べ 4 ポイントほど上昇していた。令和 6 年度よりレポート課題の見直しを行い、結果として課題数が少なくなり、平均的な学習時間が減った可能性がある。また、授業では日頃の生活での実践を伝えているが、日常的な授業時間外学習として時間の確保ができていない現状がある。講義内において学習したことを実践に移すこと（日常生活で実践すること）の重要性、またそれが授業時間外学習になることの周知を図っていききたい。また、授業開始時等でどのくらい運動を実施しているかの確認なども行い、意識付けしていききたい。
- ・昨年度より学習の時間が多くなっているため、引き続き、予習内容を明確にしていききたい。

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」「おおむね得られた」の合算は 98%であった。部門内での講義 FD や令和 5 年度より作成した manaba 教員用コース、授業計画案の作成・共有等の効果が引き続き得られたと考える。また、「体育の理論と組み合わせながら、有酸素運動や筋肉トレーニングの方法を詳細に説明しそれを実践できた」、「実生活と学習のつながりを感じることができた」などの意見もあり、学生も学習成果（実践化）を実感している様子が伺えた。昨年度から完全対面での講義となっているが、担当教員での情報共有や授業改善等を行っている。学生が学習成果を実感でき、それを日常生活に活かせるよう、引き続き内容等の工夫を図っていききたい。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた」「おおむね促していた」の合算は 97%であった。部門内での授業改善の効果が見られている。授業内では体力測定を実施し、その結果の分析・評価を行うことで、より自分自身の健康課題について捉えることができたことや、教員による丁寧なフィードバックも結果に反映されていると考える。また、スポーツ実習ではスポーツを実施するだけでなく、知的学習の場としても設定している。「コツの伝え方も上手く、新たなスポーツにもすぐ慣れてかなり楽しみながら授業を受けられた」という意見もあり、そのような場になっていたことが考えられる。必修単位として理論と実習の講義が組まれているが、双方の授業の情報共有等を行いながら、有機的に理論と実習の往還ができるように、テキストの編纂等によって授業内容の継続した改善を図りたい。さらに、させられる実技授業ではなく、考えながら自主的に取り組める実技授業の工夫を検討して行きたい。
- ・授業中に自主的な考察や取り組みができたという回答する学生が多かった。これからも、問いを大切にしながら授業を実施する。

#### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった」「おおむね良かった」の合算は 98%であった。学生のコメントからは「日頃の運動に関しての授業が多く良かった」、「運動をするきっかけになった」、「教員が学生のことをよく気にかけていた」、「楽しむを重視した授業で、楽しく取り組めた」、「仲の良い人以外とも交流ができた」など、体力測定から自分自身のデータを分析・評価することで、日常的に健康をとらえるきっかけとなったことや、身体を動かす楽しみを理解して大学生生活の始まりの時期に交友関係を築くきっかけになっていた。また「先生自身も授業を楽しみながら行っているように見えた点が、学生からすると嬉しかった」など、教員も学生と一緒に各種スポーツ等に取り組み、学生と丁寧な関わりを持っていたことが高い評価との関連があると考えられた。しかし、雨天時などは急な場所変更が発生するが、それらを manaba で早めに連絡して欲しいとの意見もあった。総合的な評価の高さを継続できるように授業改善等を行っていききたい。特に、日常生活への還元という点において、より学生への促しを図っていききたい。学生への授業内容や場所については、前の授業の際に伝えるようにしているが、雨天時など急な対応が必要な際は、manaba を活用しながら早めに連絡を行うことを心がけたい。
- ・運動する環境があまりにも暑い。内容の配列を検討する際に時期を勘案しなければならないし、冷房の完備が必要になると思われる。

#### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・「屋外での授業では木陰がない」、「体育館が暑すぎて熱中症の危険がある」、「夏場は涼める設備が十分とは言えず、脱水などの危険性は拭えなかった」など、授業実施に際しての熱中症等に対する設備への不満も挙げられていた。授業に際しては、熱中症対策を講じながら実施をしている。事前に授業場所の周知、道具等の準備について連絡を入れているが、把握していない学生も多く、体調管理等も含め manaba にてアナウンスを行っていききたい。
- ・紙媒体でのレポート提出が必要なのか、再考する必要があると思われる。この点は昨年も指摘したが、manaba での提出も検討していく必要があると思われる。

### 情報活用

#### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・本講義では受講生の Word、Excel、PowerPoint の利用経験によって、授業時間内に作業がどこまで進むかの差がみられる。アンケート結果では、受講生の 65%が 30 分以上の授業時間外の学習を行っており、最も多い学生でも 3 時間未満の範囲に収まっているため、授業内容の多寡のバランスは十分であると考えられる。時間外学習の時間が過剰な学生がいる場合、授業の進捗における不安等について聞き取りを行う。
- ・学生により大きなばらつきがあった。これは、学生により現状のパソコンスキルに差があるからだと思う。
- ・タイピングが苦手な学生でも、予習・復習（宿題）に毎週 1 時間程度の作業を考えていたので、おおむね狙い通りの自宅学習時間が確保できている。

- ・演習科目としてほとんどの作業は授業時間内で実施しており、妥当な時間であると考えられる。
- ・今後の授業においても、PC スキルの高い学生は、授業時間内の課題提出を推奨するものとするが、課題の未着手を防ぐため課題のアナウンスは丁寧に行っていく予定である。
- ・6 回程度の課題を出題したが、毎回出題に近づけていきたい。
- ・学生個々人の PC スキルの把握に取り組みたい。
- ・レポートを増やすか前もって予習課題を公開しておいて、授業で復習させる形を検討している。

## 2) 受講生が実感する学習成果

- ・100%の学生が学習成果を得られたと実感しているため、特に問題がないと考える。
- ・基礎的なアプリの使用方法も含めて、復習的な内容についても学習成果と捉えているようだ。授業内容の難易度を上げた方がよいか検討したい。
- ・多くの学生が、大学で使用する基本ソフトや簡易なプログラミングなどの習得ができたと答えしており、おおむね授業目標は達成できたと考える。入学以前のソフト使用経験の有無により作業時間に差があったため、一層、課題の進捗状況に注視するとともに、教員・TA の指導も加えながら進めたい。
- ・学習成果については約 97%の学生が成果を得られていると回答をしていることから、授業の内容の充実が伺えるところである。今後、更なる授業の充実化に向けて丁寧な説明と、相談に対する適切な助言を心がけていきたい。
- ・「十分得られた」の回答が 59.6%と、全体平均の 52.5%を上回った。なるだけ無駄を排除し、将来有用な技術を中心に指導したことが効果的だったのだと思う。後は、シラバス通り忠実にやることも効果があったのだと推測する。
- ・単位取得できなかった学生が 1 割程度いたので、全員が取得できるように TA によるフォローなどをしたい。

## 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・おおむね自主的な取り組みをしていたようだが、自由回答の内容も勘案すると、演習について行けていない人がいたと思われる。一部ではあるがこのような学生がいることを認識し、声かけを意識していく。
- ・受講生に課題作業の時間を設けることに意を注いだので、考えていた通りの結果となっている。
- ・年々、PC を自分で持ち込むなど PC に慣れている 1 年生が増えており、そのような学生は自主性も高いように思う。
- ・情報活用については、担当者の PC スキルも重要と考えられるため、より効果的な促しをするために自身のスキル向上に努めていく所存である。
- ・テキストに則った課題ではなく、応用問題の提示を検討したい。
- ・自主的な取り組みが進まない学生については、引き続き教員や TA が丁寧な説明を加えていきたい。
- ・できるだけ学生同士の交流があるように工夫を続けたい。

#### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・総合的には学生から「パソコンのスキルが上がった」「指導が丁寧だった」との意見が多いため、充実した授業であったと考えられる。ただし「情報倫理を取り扱う時間が少なかった」との意見もあったため、この点は改善すべきである。
- ・出身高校によって基本スキルに差があり、その点を考慮すべきではないかという指摘があった。
- ・TA や教員と気楽に話せるような雰囲気作りを心がけており、質問などもしやすくしている。「とても良かった」「おおむね良かった」が 96%以上とアンケートでも成果が現れている。今後も続けたい。
- ・難易度が適当であったという意見と、簡単すぎたという意見があった。
- ・レポートや添え状の書き方、プレゼン資料のつくり方、メール連絡、実験のデータ処理など、大学生活ですぐに使えるような内容を中心に講義をしたので、満足度が高かったのかと思う。一つ一つは理解できていても、時間が経つとできなくなる内容もあったので、今後は繰り返しを増やして、「分かる」から「できる」になるような工夫をしたいと思う。
- ・総合評価で最高評価を受けるべく、前向きに出席できる科目にしたいと考える。
- ・授業の進行が単調にならないように多少工夫をする必要があると感じた。

#### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・数理・データサイエンスの内容が更新されない。学生は興味なさそうである。
- ・授業開始当初想定していた以上に Word、Excel、PowerPoint について利用経験が少ない学生が多く、苦戦している姿が多くみられた。しかし、学習態度についてはおおむね積極的で、楽しんで受講している学生が多いように感じる。1 年次の前期科目であることもあり、本授業を通して交友を深める学生もいるように見受けられた。授業内容の難易度については、各年のアンケート結果の相対的な変化を考慮していく。
- ・授業内容は大多数の1年生の理解度にあった過不足ない内容であり、受講生自身の履修態度も良好である。一方で、ついて行くのがやっとという学生も少数ながらいたので、こうした学生へのサポートが必要であると感じた。進捗の遅い学生に対しては、TA を重点的に配置するなどのケアを増やす。
- ・授業内容については PC スキル全般を網羅的に扱うものであり、充実していると考えられる。ただし、授業資料では少々わかりにくい部分もあったようで、学生からの質問が多数あった。また、備え付けの PC によっては作業ができなかったりすることもあった。今後、授業資料の修正などを行い、初学者に優しい授業を目指していく所存である。また、備え付けの PC については、全ての PC で滞りなく作業ができるようメンテナンス・調整を求めていきたいと思う。
- ・新1年生に対する情報系の授業ということで今後の学生生活に与える影響が大きいと感じた。導入的な授業が多く物足りないという意見があったので、もう少し内容を増やしていきたい。
- ・高校での情報関連の授業が充実してきているため、学生個々のスキルの差は大きくなっている印象を受けた。
- ・化学系であるためか、他学科よりもコンピュータについての知識に乏しい学生が多いため、そのケアが極めて重要であると感じている。

- ・数理・データサイエンス①「情報倫理とセキュリティ」について3回目の授業で行なったところ、ウイルス対策ソフト、Office365など、学生に役立つ情報が多く反応もよかったので、昨年より教育効果が高くなったと感じた。一部の学生から「動画が長い」と言われたので、授業の中で使い方を工夫したいと思う。
- ・昨年度と同様に、学生からの改善点で「講義のほとんどがリモートでも十分講義が成り立つような内容だと感じた」との回答があった。
- ・授業内容の一部に、最新の情報が反映されていない部分があった。常に最新の情報を入手することに努め、それを授業内容に反映させる。
- ・「情報Ⅰ」が必修となる学年が新入生となったときに、出身高校などによってどれくらいスキルの差があるのか、これまでの大学1年生と差が出るか、見通しが立たない。
- ・知識や操作不足の受講生には、授業時間外に行う基礎的な課題の設定を考えていきたい。

## 英語

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「30分未満」は44%、「30分以上1時間未満」は44%となっている。もう少し予習及び課題に時間をかけるように指導したほうが良かったと感じている。グループワークには時間をかなりかけていたようであるが、テキストの予習・復習をもう少し徹底するよう指導したい。
- ・92%の学生が「30分以上2時間未満」、8%の学生が「2時間以上3時間未満」であった。課題の学習に適切な時間であると思う。
- ・「30分未満」から「2時間以上3時間未満」まで受講生によってまちまちだった。
- ・I am satisfied that the majority of students are spending a sufficient amount of time on study outside of class time. I hope that the time spent is reflected in the quality of their work.
- ・「30分以上1時間未満」56%、「1時間以上1時間30分未満」33%、「1時間30分以上2時間未満」11%となっており、熱心に取り組む受講生とそうでない受講生の差が大きいと思われる。
- ・Most of the students said they use about 1 hour for preparation.

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」は44%、「おおむね得られた」も44%であるが、「あまり得られなかった」が11%であるのが気になる。グループワークの際、ディスカッション参加が苦手な学生がいたのが原因であると思われる。
- ・学習成果を得られたと感じる学生が多かったようだ。ただ「あまり得られなかった」と感じる学生もあり、授業をもっと工夫したい。
- ・The large majority of students have expressed high learning outcomes from the course. I feel that the students get a good deal of satisfaction from delivering a good presentation.
- ・「十分得られた」58%、「おおむね得られた」42%、合計100%で、学習成果は達成されたと思う。
- ・最終的に学術的なプレゼンテーションを行うという、学習成果を実感しやすい科目でもあり、それを達成できたと感じたようだ。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- Students responded positively to the encouragement for reflection in class.
- 「英語 IA・IB・III」で積極的な考察について約 70%を占め、おおむね自主的な考察に取り組んでいたのが約 30%である。講義内容の方向性としては良いと思う。
- 13 名中「積極的に促していた」77%、「おおむね促していた」23%であった。学生の英語力を鑑み、英語学習の仕方やコツについては適宜色々な方法を教示し促した。その気持ちは学生たちにおおよそ通じているようであるが、学生が実際に行動に移すかどうかの問題である。授業をより実りあるものにするために、毎週次回の授業のための予習を推奨したが、実行できた者は半数に満たなかったと思われる。
- 「積極的に促していた」54%、「おおむね促していた」38%、合計 92%であった。自主的な考察・取り組みは達成できたと思う。「あまり促していなかった」8% (2 名) の学生に対してはサポートが必要だったと思う。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- 「おおむね良かった」60%、「とても良かった」27%であり、内容的にも専門過程と関連したものを多く扱うのが望ましいのではと思った。なお、授業の際、こちらの声が小さいとの指摘があり、以前はそのような指摘されたことはなかったので、改善しなければならないと思った。
- The overall evaluation of the course was highly positive.
- 「とても良かった」「おおむね良かった」が 96%となっているが、1 名「あまり良くなかった」と評価する学生もいた。今後の反省点としたい。
- I am satisfied with the positive results here as most students seem to appreciate the skills they developed in the class.
- テストの内容等については授業中にも説明しているが、十分伝わっていないこともあるようだ。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- 受講生の履修態度は非常によく、感心している。
- Many students reacted positively to classes being conducted only in English, which is encouraging. I think conducting English classes this way is essential for showing students that they are capable of coping in an English language environment. Some did say it was little fast, so I will try to slow down a little.
- 学生たちは 100%講義形式よりもグループワークの方が好きなようだ。
- 今回の「授業改善メモ」を通して授業を振り返り、次回の改善を考えるのに役立てたい。そして、真摯に学生の意見や要望に応え授業改善の工夫をしたい。教科書を消化することが本コースの最終的な目標ではないし、教科書はあくまでも学習・練習のツールの一つに過ぎないとしても、もう少し教科書を進めていきたい。
- この講義では学生に速読理論を習得させ、それに基づいて速読能力を得ることを目的としたが、教科書に基づいた自主教材や指導方針に従い、真面目に取り組んだ結果、総体的にはすばらし

い成果が出たと思う。

- ・ Only 21 of the 35 students in the class replied to the survey, I think we must do more to make sure as many students as possible participate. As for students and their work, this class was one of my best.

## 日本語・日本事情科目

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・ 回答にばらつきが見られ、「30分未満」の学生が38%いる一方で、「1時間30分以上2時間未満」の学生も23%いた。課題について細かく指示することで、確実な学習を促したい。
- ・ 「1時間30分以上2時間未満」の回答が最も多く、予復習や授業課題負担は適正だったと考える。

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・ 全て「十分得られた」「おおむね得られた」との回答であり、学習者側から見ても一定の学習効果が感じられたものと解釈できる。
- ・ 「あまり得られなかった」という回答は8%で、ほとんどの受講生が成果を実感している。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・ 講義、タスク、話し合い、確認といった過程を通して、受講生の理解を確認しながら授業を進めた。
- ・ グループワークを適宜取り入れ、内容に対する理解を促した。
- ・ 全体のアンケート結果から、「積極的に促していた」「おおむね促していた」を合わせた回答が92%であった。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・ 「おおむね良かった」の1名以外は「とても良かった」と回答し、担当クラスの自由回答を見ても、授業内容やクラスの雰囲気について肯定的なものが多かった。
- ・ 全体のアンケート結果から、「とても良かった」「おおむね良かった」を合わせた回答が85%であった。一方で、15%が「あまり良くなかった」と回答していた。具体的な理由の検討も必要かもしれない。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・ 毎年、外国人留学生の中でもレベル差が大きい。特に日本語で学ぶ上でつまずきやすい点にフォーカスし、クラスサイズを活かして、できる限り個別的に指導できるよう引き続き工夫したい。
- ・ 受講生の出席状況、学修態度はおおむね良好で、オムニバス授業で担当する教員が変わるたびに、緊張感をもって授業に臨んでいたようだ。
- ・ 授業の課題や演習の意図を受講生が十分理解して取り組むよう配慮して授業を行った。
- ・ オムニバス形式の授業の中で、「防災システム」「メンタルケア」が役に立ったとのコメントが

あった。

## 初修外国語

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「1時間以上1時間30分未満」が27.8%、「1時間30分以上2時間未満」が20.6%、「2時間以上3時間未満」が19.4%で、この3つで全体の7割を占めていた。
- ・初修外国語の平均値とほぼ同じであり、全体の平均値と比べると、「1時間以上1時間30分未満」の割合がやや多かった。「30分以上1時間未満」の受講生が1時間以上になるよう、自習を促して行きたい。

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」が55.2%、「おおむね得られた」が41.9%であった。
- ・初修外国語の平均値とほぼ同じであり、全体の平均値と比べると、「十分得られた」の割合が多かった。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた」が75.8%、「おおむね促していた」が22.6%であった。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・受講生全体の96.9%が授業アンケートに回答してくれた。学生たちがおおむね肯定的に評価してくれている。毎回課題を添削して返していることを高く評価しているようである。
- ・初修外国語の平均値とほぼ同じであり、全体の平均値と比べると、「とても良かった」の割合が多かった。自由記述では文化的な内容が評価されていた。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・学生たちが積極的に授業に取り組んでくれた点、また、すべて対面授業であったが、コロナウイルス等で来られない学生には、授業に遅れがないようZoomでも対応できた点が良かった。

## 異文化理解入門

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・去年と比べると0～1時間30分未満の学生が減少し、逆に1時間30分～4時間以上の学生が増加した。各担当者が学生の興味を引くような授業外学習用のコンテンツを充実させるとともに、それが授業外学習の時間に含まれることを周知した結果だと思われる。

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・おおむね成果を実感しているようである。

#### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・さまざまな文化圏の知識を広く学べることについて、高い評価が多かった。

### 教養基礎科目

#### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・回答の半数以上が「30分未満」であった。興味・関心を持って受講しているとは思っているので、もう少し自主的に取り組んでもらいたい。
- ・人文社会科学分野（選択科目）においては「30分以上1時間未満」が27.1%、「1時間以上1時間30分未満」が22.4%となり、ほぼ半数の49.5%で十分な時間を確保する一方、「全くしなかった」という回答も11.3%あり、今後改善の余地がある。
- ・少ないように感じるが、学習時間だけでなく普段から「考える」ことをしてきたことが最終レポートからわかる。
- ・これまでレポートは宿題としていたが、授業時間内にレポートを提出させるスタイルに戻した途端、学習時間が減少した。授業時間外学習をどのようにとらえているのか。自己研鑽のためであってほしい。
- ・「30分以上1時間未満」の割合が43%で自然科学分野（選択科目全体）よりも明らかに高く、「1時間以上1時間30分未満」は20%、「1時間30分以上2時間未満」は8%で、自然科学分野（選択科目全体）と同程度であった。毎講義後にmanabaでレポートを課したので、一定の学習時間が確保されたと思う。

#### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・回答者全員、学習効果が「十分得られた」「おおむね得られた」ようだ。知識獲得型の授業では復習や繰り返し特に重要であることを示していきたい。
- ・「十分得られた」の割合が20%、「おおむね得られた」の割合が69%で、自然科学分野（選択科目全体）と同程度であった。基礎的な内容と発展的な内容の両方を話したのが評価されたと思うので、今後もそのような方向性で取り組みたい。
- ・同じ授業内容であったにもかかわらず去年より評価は低かった。今年は受ける学部が異なっており、文系学生が多かったためかもしれない。

#### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「あまり促していなかった」がわずかだがいた。説明を多くする授業内容なので、促しが少なかったと判断されたのではないかと思う。テキストの例文をアレンジした問題を適宜出して解答させるなど、考えさせる時間を増やしたい。
- ・「積極的に促していた」が70%、「おおむね促していた」が28%と考えさせる内容であったと思われる。引き続き、自分事として考えさせるようなアクティブラーニングや体験、ディスカッション等、この方針は変えずに実施する。

- ・毎回授業時間内にレポートを提出する方法であり、熱心に作成している学生がほとんどで、疑問点や自分なりの見解を記述している内容も多かった。
- ・授業後半にレポートを実施することで、講義の振り返りができていると思う。
- ・「積極的に促していた」が25%、「おおむね促していた」が73%で、98%が促していたと感じていた。毎回ではないが、簡単な質問を混ぜながら講義を進めたのが評価されたと思う。

#### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・課題の提出期限について統一して欲しいとの意見があった。この点は、オムニバスで実施している講義なので、学生へ提出期限を周知させる。
- ・スライドの投影時間が少ないため、メモがとれないという意見があった。スライドの manaba での公開を考える必要がある。紙面での配布や印刷は多人数授業には向かないと考える。
- ・基本的に良い評価を得ている。黒色のボードマーカーがすべて無くなったときが5コマ程度あった。ホワイトボード上では次に見えやすいのは（色覚異常を考慮しても）青色だが、それでも少し見えづらかった点を受講生より指摘された。板書の速度が早かったことなども指摘された。
- ・鹿児島大学ならではの講義であり受講を希望したとの意見や、焼酎について詳しく知れた点、特に芋焼酎について学べたのは鹿児島の風土とも関わりがあることなので面白かったなどの意見があり、鹿児島大学の特色ある講義を行うことは意義深い。

#### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・評価の配点が大きい割に、提出課題の頻度が少なかったようだ。そのため、上位者の総合評価に大きな差があまりつかない結果になってしまった。課題の回数とともに量も増やすことで、より適正な評価が得られるよう改善したい。
- ・授業で体調不良となり気になる学生がいたが、教員間で情報共有しながら進めて行くことができた。
- ・受講生が多すぎて、学生の反応を確かめながら講義することができない。一部の文系学生から難しいとの評価があったが、中学生で習うレベルの物理法則しか話していない。文系学生が受けることができる理系の共通教育科目の不足を強く感じる。
- ・毎回授業時間に作成して提出するレポートの評価（評点）の平均が最終評価であるため、遅刻者や途中退室者はほとんどいなかった。多くの教員が厳正に評価しているため、欠席が多くなると単位取得が困難となっている。毎年、最初の授業回にこのポイントを力説している。

## 基礎教育入門

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・最も多かったのは「30分以上1時間未満」の31%で、1時間以上と回答した学生は40%であった。昨年度は1時間以上の学習時間を確保していた学生は32%であったことから、今年度は学習時間が増加した。授業時間外学習の時間を増やすために授業の終盤で予習・復習の具体的な方法を示したり、授業の冒頭で復習状況の確認をしたことが効果として表れたと考えられる。

## 2) 受講生が実感する学習成果

- ・「おおむね得られた」が68%で最も多く、次いで「あまり得られなかった」が19%であった。おおむね学習成果が得られたものと評価する。より学習成果を実感できるように授業毎に成果確認ができるような取り組みを検討する。

## 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた」または「おおむね促していた」と回答した学生が100%を占めた。授業中に自分で考えることの大切さを繰り返し説明したことが表れた結果であると考えられる。
- ・「おおむね促していた」が61%で最も多く、次いで「積極的に促していた」が22%であった。毎回演習の時間を取っていたため、妥当な評価だと考える。

## 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・99%の学生が「とても良かった」または「おおむね良かった」と回答した。水産学部生のほとんどは生物志向が高く、物理を苦手とする学生が多い。水産学における物理学の重要性を丁寧に説明しながら授業を行ったことで、学生たちは本授業に対して一生懸命に取り組めたのではないかと考えられる。

## 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・学生の理解度を毎回確認するため、すべての授業を対面形式で開講するとともに授業後にはresponを用いて質問を受け付けて、それに対して丁寧に回答するようにしたことが良かったのではと考えられる。
- ・授業内容をほとんど追えない学生が一部にいた。このフォローは補講で行っているが、それでも理解がほとんど追いつかない学生がいた。そのような学生はレポート課題等では把握できず、期末試験の結果で初めて認識するような状態であった。授業毎に学生の理解度や習熟度を測る取り組みを行いたい。

## **教養活用科目**

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・昨年度前期に比して「全くしなかった」が11%から2%へ激減した。対するに「1時間以上1時間30分未満」は33%から55%へと増加しており、全体として勉強時間が増えている。授業の事前と事後との学習をパターン化し、学習を習慣づけるなどの工夫が必要だと考える。
- ・80%が1時間未満だった。ミニツツペーパーの記入項目を増やしてみる。

### 2) 受講生が実感する学習成果

- ・「あまり得られなかった」と回答した1名は、改善点に関する記述もなかった。スライドに目次がほしいという意見もあったので、できるだけ取り入れたい。

- ・大人数科目であるにも関わらず、「十分得られた」「おおむね得られた」の総計は97%であり、昨年と同様であった。「十分得られた」が58%から78%へと増加し、満足度はさらに上昇している。学習実感のあるコンテンツの準備を怠らないようにしたい。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・事後学習用の小テストを毎回作成し、授業内容を復習しやすいようにした。また、学生同士で、考えたことをアウトプットする時間を設けた。
- ・「積極的に促していた」「おおむね促していた」の総計は昨年度よりも3ポイント増え、98%の学生がアクティブな授業だと評価した。さらに「積極的に促していた」は昨年度よりも16ポイント増加し、8割の学生がアクティブラーニングだと評価した。アクティブに学ぶには毎回のインストラクションが重要である。今後も改善を怠らないようにしたい。
- ・学生の知識のばらつきがあるので、自主的に学びができるように促したことは評価されているようであった。ただ、授業時間内で話し合いなどをする時間を求める声もあった。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・授業内でグループワークの時間が取られ、自分にはない他者の考えを知ることができた、質問のフィードバックから授業が始まるため、より考えが深まる授業形式であったとのコメントがあった。また、途中で休憩を挟むことで集中力を持続させることが出来た、manabaの小テストで学生の挙げた質問について細かく説明していただけたことで、前回授業の復習にもつながり、記憶の定着になったとの意見もあった。
- ・機械の操作に不慣れなところがあり、映像を写すことができなかった時間がある。機械の操作に習熟することで対応したい。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

- ・用語が難しく理解が追いつかないと言う声もあった。できるだけ噛み砕いて説明しているが、難しい用語のわかりやすい説明の仕方を考えたい。
- ・締切後のrespon送信や小テストなどの提出について、やむを得ない理由がない限り認めていないが、締切後の提出を認めてほしいなどの問い合わせが数件あった。出欠確認や評価方法についてはシラバスやコースニュースで周知しているが、今後も周知徹底を図りたい。
- ・大雨により登校が不可能で遠隔も適宜行った。真面目に履修していた。

## **学芸員資格科目**

### 1) 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・半数近くの学生の授業外学習時間が1時間未満だった。より具体的な授業時間外学習の指示を授業中に行いたい。

### 2) 受講生が実感する学習成果

・「あまり得られなかった」と回答した受講生が2名いた。より多くの受講生が学習成果を実感できるように工夫を重ねたい。

### 3) 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

・「促していなかった」と回答した受講生が3名いた。問いかけ、フィードバック、宿題の意味づけの説明等を授業時間中に増やしていきたい。

### 4) 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

・「あまり良くなかった」と回答した受講生が2名いた。「スライドに写真が欲しい」「グループワークを増やして欲しい」等の意見があった。スライドに写真を加えるなど、工夫していきたい。

### 5) 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業等）

・コロナ禍で中断していたKJ法（各受講者が紙片に自分の意見を記載し、小人数でグループワークを行なう手法）を行なったところ、好評だった。出来るだけグループワークを工夫していきたい。

公開日 令和7年1月24日  
文責 鹿児島大学共通教育センター  
FD委員会委員長 大野克彦